

フロアイメージ図

3階	リハビリ 手術・中央材料 血管造影 会議室など
2階	病棟① 病棟② 病棟③
1階	売店 外来 救急 内視鏡 健診 化学療法 放射線 検査 薬剤 透析 栄養 訪問看護

新病院の建設概要

北播磨医療圏域における
必要な病床数と実際の病床数との差

	令和7年 必要な病床数	令和5年 実際の病床数	過不足
高度急性期	234床	39床	▲195床
急性期	988床	1095床	107床
回復期	889床	781床	▲108床
慢性期	1257床	1257床	0床
全体	3368床	3172床	▲196床

不足

北播磨総合医療センター（小野市）を主として、加古川中央市民病院（加古川市）、県立はりま姫路総合医療センター（姫路市）などの基幹病院や周辺診療所との連携を強化していきます。また、周辺医療機関と役割を分担し、急性期病床を維持しながら、北播磨医療圏で不足している回復期病床を整備していきます。

周辺医療機関との連携を強化

建設場所・概要



建設予定地 加西市豊倉町
敷地面積 約47,600㎡
建物規模 1床当たり90㎡（目標面積）
延床面積約12,240㎡（想定）
階数 3階建て（耐震構造）
駐車場 約550台
概算総事業費 130.2億円※1

※1 土地関連費・設計管理費・建築工事費・機器等整備費・その他経費の合計金額

スケジュール

基本構想・基本計画をもとに、令和12年度の開院をめざして、新年度以降、設計、工事を進めていきます。

R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	基本構想・基本計画	基本設計・実施設計	造成工事	新館工事	移転	開院	

地域連携医療のイメージ

（高度）急性期病院

北播磨総合医療センター・加古川中央市民病院・県立はりま姫路総合医療センターなど

救急 中等～高度



急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供
例) 救命救急病棟や集中治療室など

高度・専門的治療後の継続的なケアを要する患者の紹介

高度・専門的治療を要する重症患者の紹介

市立加西病院

救急 軽～中等度

手術 入院 外来



自宅や介護施設などで体調を崩された方の救急対応、入院医療の提供

自宅 介護施設 など

診療所などで経過観察が必要な患者の紹介

かかりつけ医で対応が困難な患者の紹介

診療所

かかりつけ医による日常的な診療の提供



かかりつけ医による日常的な診療の提供



☎07753

問合先 都市計画課

新病院を中心としたエリアに、加西病院の機能を補完する開業医療や各種福祉施設を立地誘導し、医療・福祉のセンター機能を中核とするメディカルタウンを整備していきます。

農産物直売所や商業施設を立地誘導し、住民が健康で便利な生活を送れるようなまちづくりを進めていきます。

メディカルタウン

新病院から広がる 便利なまちづくり

加西病院が全ての医療を担うことは、これからの人的・医療資源などを見据えると難しい状況です。医療圏の中には急性期を担う北播磨総合医療センターがあり、加西病院は、主に回復期の役割を担っていきます。高度な医療や緊急の治療については迅速に基幹病院に紹介し、状態が落ち着いたら、住み慣れた加西で安心して自宅に戻るまでの治療を受けられるように、体制を作っていくと考えています。

新病院建て替へは、現在の病院本館が耐震基準を満たしていないこと、老朽化に伴うものではないこと、10年以上前からある北播磨医療圏の地域医療構想での、医療機能の役割分担という観点からも、このタイミングでの建て替えになっています。



市立加西病院 生田 肇 院長

切れ目ない医療を めざして